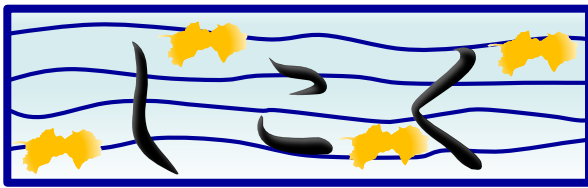


主な記事

旅団長離着任行事
旅団災害対処演習
旅団音楽まつり
転出入行事

(1面)
(1・3面)
(1面)
(2面)



令和5年(2023年)2・3月 第180号



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

第12代旅団長 大場剛陸将補着任

統率方針「万全任務が基準」
要望事項「実力の進化」「地域との連携」

令和5年3月30日、善通寺駐屯地において、第12代旅団長 大場剛陸将補の着任式を挙行了。大場旅団長は、山形県出身で職種は野戦特科。主要略歴は、第4師団副師団長兼て福岡駐屯地司令、第1特科団長兼て北千歳駐屯地司令、東北方面総監部幕僚長兼て仙台駐屯地司令等を歴任している。

大場旅団長は、着任式において「第14旅団は、明確な任務を有する部隊であり、任務遂行こそ我々の存在意義である。本日から諸官の先頭に立ち、全力を尽くして隊務に邁進することをここに誓う。共に頑張ろう。」と決意を述べた。



遠藤前旅団長 離任 第7師団長(東千歳)へ

第11代旅団長 遠藤充陸将補の転出行事を、3月29日に善通寺駐屯地で実施した。遠藤前旅団長は、令和2年8月に着任以来、「プロであれ」を要望し、常に陣頭に立ち第14旅団を鼓舞してきた。第14旅団司令部の隊員に見送られ、駐屯地を後にした遠藤前旅団長は、3月30日付で陸将に昇任し、第7師団長に就任した。



記者会見



着任式(巡閲)



儀じよう



慰霊碑参拝(記帳)

旅団災害対処演習

職種のプロ

実力を見せる

旅団音楽まつり

各種事業に併せて飛行隊・音楽隊訓練検閲を実施



興津津波避難タワーにおける
ホイスト救助訓練

約3年ぶり地域との連携強化を図る
第14旅団は、令和5年2月上旬、四国各地において、令和4年度旅団災害対処演習を実施した。本演習は、南海トラフ地震が発生し、土佐湾沖を震源とする大規模地震及び津波被害により、四国全域に被害が拡大したとの想定のもと実施した。

「備え」を万全に

3年ぶりに実施した自治体・関係部外機関等との共同訓練においては、地震・津波により道路に被害が発生しているとの想定で、高速道路の緊急開口部を利用した進出訓練のほか、物資の輸送訓練及び民間通信回線を利用した通信ネットワークの構成を官民連携しつつ演習した。

また、本演習では、第14飛行隊(隊長 福重誠啓2等陸佐)の災害派遣、特に南海トラフ地震対処における行動について訓練検閲を行った。

第14飛行隊は、発生直後の被害状況の確認、防災拠点(公園)の場外離着陸場や部外施設の輸送及び人命救助活動を実地における実

際的な訓練により、災害対処能力の向上を図った。特に、実際の津波避難タワーからのホイスト訓練は、第14飛行隊としても初めての実演であり、多大な成果を収めることができた。

統裁官(旅団長 遠藤充陸将補)は訓練検閲の講評において、「第14旅団唯一の有人航空機を有する第14飛行隊の練度が旅団の任務達成の成否に直結することを認識し、平素から被害状況を想定し、研究や訓練を重ねることを期待する。」と述べた。

関連 Ⅱ ④面



国歌「君が代」

第14旅団は、3月4日、高松市レクザムホール(香川県)において、令和4年度第14旅団音楽まつりを実施した。本行事は、自衛隊及び第14旅団に対する理解と信頼の醸成を目的とし、併せて第14音楽隊の訓練検閲として演奏プログラムの構成及び演奏実(吹奏楽)を評価項目として実施した。

第14音楽隊(隊長 中福島昭洋2等陸尉)は、「JUMP」飛び出そう」をテーマに新たな時代に向かって飛び上がる様相を来場者一人ひとりに感じていただけるよう、各章ごと抑揚ある演出を行った。特に第3章「演奏と映像のコラボレーション」においては、撮影から編集まで、第14音楽隊の隊員が主体

JUMP ~飛び出そう~

約1200人の歓声がホールに響く



両太鼓隊による合同演奏

善通寺十五聯太鼓・土佐50連龍馬太鼓

となり、地域に根差した第14旅団の想いを曲と映像をもって来場者に伝えたい。

当日は、招待者及び一般公募(SN応募)、約1200名のご来場をいただき大盛況のうちに音楽まつりを終了した。

来場者からは、「大変勇気をもらいました。今後も日本・四国のために頑張ってください。」「私も自衛隊の仕事をしたいなと思いました。」「などの嬉しいコメントが寄せられた。



陸上自衛隊 第14旅団

逐次発信中！



陸上自衛隊
広報チャンネル



陸上自衛隊広報チャンネル
(YouTube)に
「自衛隊式感染症予防」
を掲載中！

駐屯地所在隊員に見送られる
山崎前幕僚長



山崎前幕僚長は、
第11旅団副旅団長（真駒内）へ



前幕僚長 山崎誠一1等陸佐の転
出行事が3月10日、善通寺駐屯地で
行われた。
山崎1佐は、令和4年3月に着任
し、約1年間勤務した。
転出行事の後、駐屯地所在隊員に
見送られ、駐屯地を後にし、3月13
日付で第11旅団副旅団長兼ねて真駒
内駐屯地司令に着任した。



旅団司令部各部課長等の出迎え



120mm迫撃砲



81mm迫撃砲

基本・基礎の徹底を図る

令和4年度旅団統制射撃訓練



状況報告受け

第14旅団は、2月中旬から2月下旬までの間、日本原演習場（岡山県）及びあいば野演習場（滋賀県）において、令和4年度120mm迫撃砲及び81mm迫撃砲旅団統制射撃を実施した。

本訓練は、実弾射撃における安全管理の徹底を目的に行われた。

実弾射撃に先立ち、第15即応機動連隊及び第50普通科連隊は、各駐屯地等において、非実射訓練（実弾を使わない動作訓練）を綿密に行うとともに、実弾射撃においては、安全指導員がチェックリストに基づく指導を行い、旅団として安全管理の徹底を図った。



旅団長に対し説明を行う隊員

創意と改善

旅団装備改善提案審査会

第14旅団は、3月上旬、善通寺駐屯地において、令和4年度旅団装備改善提案審査会を実施した。

各部隊は、日頃使っている装備品等の更なる性能・操作性・安全性等の向上のため創意を凝らした提案を熱心に説明した。



転入



第14旅団司令部総務課長
（第110教育大隊）
2等陸佐 土橋 晃輔
令和5年3月13日付



第14旅団司令部第4部長
（北部方面後方支援連隊
第104補給大隊）
2等陸佐 森 祐子
令和5年3月13日付



第14旅団司令部第3部長
（教育訓練研究本部）
1等陸佐 早田 知弘



第14旅団司令部付隊長
（松山駐屯地業務隊）
3等陸佐 菅 貴光



第14高射特科隊長
（陸上幕僚監部防衛部防衛課）
2等陸佐 鶴ヶ野翔太



第14後方支援隊長
（陸上総隊司令部）
1等陸佐 佐藤 欣央
令和5年3月30日付



第15即応機動連隊長
（富士学校）
1等陸佐 徳淵 文雄

転出



富士学校
2等陸佐 堀 正幸
令和5年3月13日付



輸送学校
（第14旅団司令部第4部長）
2等陸佐 岡田 貴司



第7師団司令部
（第14旅団司令部付隊長）
3等陸佐 實野 智史



高射学校
（第14高射特科隊長）
2等陸佐 富高 英和



中部方面総監部装備部
（第14後方支援隊長）
1等陸佐 吉元 雄一
令和5年3月30日付



陸上幕僚監部監理部
（第15即応機動連隊長）
1等陸佐 福井 謙

部内表彰

第48回全国自衛隊剣道大会
ベスト8

高知A（第50普通科連隊）

先鋒 2等陸曹 竹内 大介

次鋒 3等陸曹 岡村 健志

中堅 2等陸曹 櫻木雄一郎

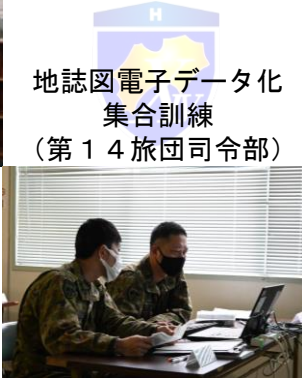
副将 3等陸曹 上岡 祐太

大将 1等陸曹 三原 大和

部隊暗号電信
（第14通信隊）



地誌図電子データ化
集合訓練
（第14旅団司令部）



らっぴ集合教育
（第15即応機動連隊）



メンタルヘルス要員・
部隊相談員集合訓練
（第14旅団司令部）



各種集合訓練等

撃、110mm個人携
帯対戦車弾射撃及び
手榴弾投てきを実施
した。



航空機搬出



患者搬送（夜間）



孤立者の救助

第14飛行隊

自ら考え行動せよ

第14飛行隊（隊長 堀慎也2等陸佐）は、2月上旬、旅団災害対処演習兼ねて第14飛行隊訓練検閲を受閲した。

訓練検閲では、南海トラフ地震対処計画に基づく被災からの一連の飛行隊の行動について受閲し、各種飛行任務、指揮所の移転、航空調整所の開設、徳島・高知県庁への連絡幹

点の偵察を実施した。この際、旅団司令部の高知への移転に応じた指揮所の推進要領を練成・確立するとともに、隊主力による前進経路上の迂回路の偵察及び電波地誌等の収集を実施して、隊の地誌資料整備を推進した。

また保有する携帯型映像伝送装置（デジエロ）を使用した映像伝送訓練を実施して、現地状況に応じた情報を簡明に伝達する能力の向上を図った。今後予想される南海トラフ地震に迅速に対応できるように、旅団の魁としての役割を果たすべく平素できる準備・訓練に励み、即応態勢を更に向上する。

南海トラフ地震に備えて 準備にぬかりなし



隊主力の前進



初動派遣部隊命令下達



初動派遣部隊準備

初級特技検定を実施

第14高射特科隊（隊長 富高英和2等陸佐）は、2月中旬、松山駐屯地（愛媛県）及び小野演習場（愛媛県）において令和4年度初級特技検定（近SAM・短SAM・情報小隊）を実施した。

本検定は、隊の保有する各種器材に対する知識及び操作の練度を評価・判定し、その進歩・向上を促すことを目的に実施し、受検者は自身の所属する小隊の器材に関する術科試験及び学科試験をそれぞれ受検し、初級検定受検者全員が合格した。

初級検定受検者は、高射器材の基本的な操法及び学科に加え、小野演習場においては通信、野戦築城、警戒及び歩哨勤務の術科試験を実施した。また、野戦築城においては、一夜で個人用掩体に加えHMG用掩体を構築した。各人は、その過酷さに耐え、必要な忍

第14高射特科隊

耐力を体得するとともに、掩体の重要性を認識することができた。検定を受検した藤中杏1等陸士は「正規基準の深さにHMG用掩体を掘ることがこんなに難しいとは思っていなかった。新隊員後期では昼間のみの訓練であり、引き続き夜間においても、掩体を掘り続けたのは初めてであり、とても辛かったが、同時に達成感も感じた。演習では小隊に迷惑をかけないよう今後も練成していきたい。」と検定を振り返り、今後の練成への熱意を語った。



11短SAM発射装置の点検



歩哨の警戒



HMG空砲射撃

第14通信隊

意地でも伝える通信魂

令和4年度伝令通信（持続走）競技会

第14通信隊（隊長 小野田怜2等陸佐）は、3月上旬、善通寺駐屯地（香川県）において、令和4年度伝令通信（持続走）競技会を実施した。

本競技会は、各小隊等を7人編成のチーム戦による「伝令リレーマラソン」の部と、3000メートル走の「個人の部」、2つの部

の勝ち点方式による「総合の部」で実施した。

今年度初の試みとなる「伝令リレーマラソン」の部では、通信の最終手段である伝令通信スタイルで実施した。すなわち第1走者は口頭で伝えられる内容を聞き取り（図1）、伝令文として通信筒（パトーン）に格納して第2走者から



（図1）口頭で伝えられる伝令文を記録



（図2）伝令文の受け渡し

第7走者まで繋ぎながら（図2）、18キロを走破する。アンカーとなる第7走者は伝令文の確認を受け、内容に間違いがないと確認するとペナルティとして走行距離が加算される。各チーム通信科隊員としての誇りと熱い想いを胸にし、最速を削り、最も正確に伝令文を届けた小隊は、1時間15分20秒の記録をもつて「伝令リレーマラソン」の部を制覇するとともに「総合力」の部において優勝を飾った。

一人ひとりがプロフェッショナル

第14情報隊



発射機へ積載

九州の空へ！！ 無人偵察機運用訓練を実施

第14情報隊（隊長 斐清博2等陸佐）は、2月下旬から3月上旬、日出生台演習場（大分県）において、無人偵察機運用訓練を実施した。早朝から各種装置の設置・開設を行い、第14旅団長が見守る中、無事飛行に成功した。今回の運用訓練は、方面特科隊へ映像提供するための撮影飛行に臨んだ。初めての共同訓練でもあった。

今回の飛行訓練を終え、第14情報隊長は「教育入校等で人員が少ない中、トラブル無く飛行に成功したことに、隊員各人がプロフェッショナルだと意識していることが確認でき、大変うれしい。今後は、各種状況に応じた訓練を行いたい。」と抱負を述べた。

第14旅団司令部付隊

第14旅団司令部付隊（隊長 實野智史 3等陸佐）は、2月中旬、日本原演習場（岡山県）において、第14特殊武器防護隊と協同でHMG射撃を実施した。付隊からは3名の射手が交代で曳光弾を含む計500発を射撃した。射撃当日、全射手が神経等を集中させて訓練に臨み、HMG射撃の練度向上を図ることが出来た。

この際、射弾が停弾堤から出ないよう、射向等を物理的に制限して安全管理に努め、一件の事故無く訓練が実施できた。

重機関銃（HMG）射撃を実施

途中、的（敵）が強風で倒れるアクシデントが発生し、修復のために射撃が一時中断したが、射手は集中力を保持し、整齊と射撃を継続させつつ、射弾の修正を加えて、数百m以上離れた的（敵）に命中させる練度にあることを証明した。射手の渡邊2曹は、「姿勢がきつかった。器材の不具合等を技術でカバーした。」と同じく射手の吉井3曹は、「3番目に撃ったので（ほぼ修正がイメージ出来ており）当たり易かった。」と述べた。



射座より弾着地域を見通す

司令部付隊は本訓練の成果を活かし、引き続きHMG射撃の練度の維持向上に努めるとともに、司令部の直接警戒任務遂行に必要な各種訓練を実施していく所存である。



化学器材の点検・整備



第14特殊武器防護隊

NBC報告・通報

各部隊に対し特殊武器攻撃への対処要領について普及機能別合同訓練【特殊武器防護】

第14特殊武器防護隊（隊長 西原清隆 3等陸佐）は、3月上旬、善通寺駐屯地及び国分台演習場において、令和4年度機能別合同訓練「特殊武器防護」を実施した。訓練はNBC報告・通報、人員除染所の開設・運営及び化学器材の点検・整備に分けて行われた。

訓練参加者は、普段訓練の機会が少ないNBC報告・通報及び除染所の開設・運営に当初悪戦苦闘していたが、練成訓練を通じて、敵の特殊武器攻撃への対処能力を向上させるとともに、化学器材の整備要領を再認識した。

入隊・入校激励会

春から自衛官になる学生等に対し
演奏で不安を払拭



演奏中の様子

第14音楽隊

第14音楽隊（隊長 福島昭洋 2等陸尉）は、令和5年3月14日に愛媛県松山市コミュニティセンターで行われた愛媛県入隊・入校激励会に参加し、激励会式典中の国歌吹奏及び激励演奏を実施した。

各地方協力本部の主催で行われている本行事は、自衛隊入隊・入校予定者とその家族を対象にしたもので、音楽隊は各地

で演奏を実施している。当日は知名度の高いディズニーの楽曲や春を感じさせる「さくら」、自衛隊ならではの行進曲「扶桑歌」や「大空」等の演奏を行った。

激励会開始当初は緊張した面持ちだった入隊・入校予定者も、激励演奏等を通じてリラックスした表情となり、入隊・入校前の不安の払拭をお手伝いした。

隊員家族投稿 「私のお母さん」

第14特殊武器防護隊
准陸尉 長野 奈美
娘 友侑ちゃん

私のお母さんは、自衛隊で働いています。とてもきれいな好きで、いつも掃除をしています。お仕事から帰ってきて部屋が散らかっていました。片付けるように言われます。すぐに片付けないと「片付け上手になりなさい」と怒られます。ほかにもこわいところはありますが、優しい時はすごく優しいです。お菓子や料理と一緒に作ったり、買い物に行くとき欲しいお菓子を「仕方ないね」と言いながら買ってくれます。

そしてよく「いつ仕事で居なくなるかわからない」と言われます。会えなくなるのが嫌なので、毎朝先に仕事に行くお母さんを見えなくなるまで見送っています。

当直や訓練でお泊りの時は、はじめはとても寂しかったですが、今はもうなれたので大丈夫です。音楽祭りに連れて行ってくれた時にはとても迫力がありました。これからもお仕事頑張ってくださいね。



野堀3曹に聞きました！
日頃どのようなお仕事をされていますか？

野堀3曹はどんな人ですか？

周りの方々に聞きました！

野堀3曹はどんな人ですか？

野堀3曹はどんな人ですか？

KEYMAN 音楽隊員として求められる マルチなスキル

今回は旅団唯一の音楽隊である第14音楽隊から、
サクソフォーン奏者として活躍する野堀3曹にスポットを当てていきます。

音楽隊の任務は主に演奏任務であるが、演奏と一口に言っても求められる技能は多岐にわたる。

担当楽器の演奏技能はもちろんのこと、ピアノやエレキベース等の、決まった担当者がいないものの演奏会が必要とされる楽器の演奏技術や、野堀3曹のように司会者として来場者に語り掛けるスキルを持つ隊員も多い。

センスや才能も必要とされる厳しい分野だが、それだけに個々の隊員からは、やりがいを感じている様子が伺えた。



野堀 理恵（のほり りえ）3等陸曹
担当楽器 サクソフォーン
好きな食べ物 チンジャオロース